

Testing for changes in income inequality in Japan

広島大学大学院社会科学研究科・経済学部 西埜晴久*

日本における経済の不平等度については、2000年前後に橘木俊昭（1998）および大竹文雄（2005）によって行われてきて、80年代および90年代を通じて不平等度が拡大してきたことについては、共通の認識ができつつある。さらに、2000年代以降に不平等度が変化したかどうかは興味深い問題であると考えている。

Nishino, H. and K. Kakamu (2011) では対数正規分布を仮定したパラメトリックな不平等度の変化の検定を提案していたが、本報告ではノンパラメトリックな検定も取り上げて、2000年代以降も含めた日本の家計調査のデータに対して不平等度が変化したかを検討する。

参考文献

- [1] Nishino, H. and K. Kakamu (2011) “Grouped data estimation and testing of Gini coefficient using lognormal distributions,” *Sankhyā*, Series B, **73**(2), 193–210.
- [2] 大竹文雄 (2005) 『日本の不平等』, 日本経済新聞社.
- [3] 橘木俊昭 (1998) 『日本の経済格差』, 岩波新書.

*〒739-8525 東広島市鏡山 1-2-1. Email: hnishino@hiroshima-u.ac.jp